

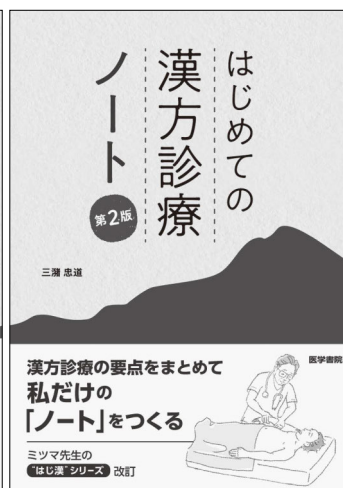
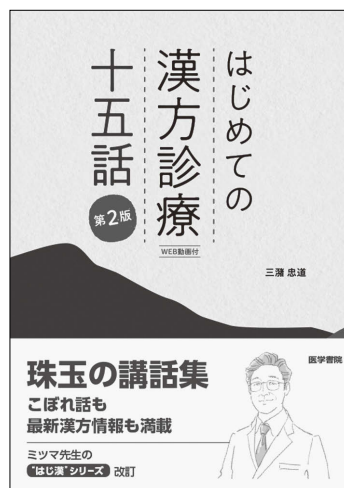
はじめての漢方診療 十五話 [WEB 動画付] 第2版* はじめての漢方診療 ノート 第2版**

三瀧忠道【著】

評者

田原英一

飯塚病院東洋医学センター漢方診療科



三瀧忠道先生は 2021 年、コロナ禍で延期された日本東洋医学会の会頭も務められ、大変お忙しい最中、名著『はじめての漢方診療十五話』の第2版を出版された。本書は漢方診療の基礎を学ぶのに最適もしくは最高の1冊である。その2つの理由は、三瀧先生の臨床を余すところなく公開し、いわば三瀧漢方という太い柱に沿って、漢方診療が語られている点にある。

その基本はいわゆる古方に属しながら、一方で現代の疾病構造を見据えた柔軟な診療体系を公開している。一般に西洋医学のみを学んだ者にとって、漢方の概念、臨床は難解で、1冊の本を読んだくらいでは、なかなか身に付かないであろう。漢方の手引き書として、多くの著者による、さまざまな意見や考え方が錯綜するものや、単一著者ではあるが、公開されている情報が簡素過ぎて物足りないものを手に取ったことがあるが、本書は簡単すぎず、難しすぎず、それでいて骨のあるブレない1冊である。

本書は第2版となっており、それだけでその評価が高いことが既にわかるが、その1つの要因に、誤字脱字が非常に少なく、校正によほどの力が割かれているのではないかと想像する。第2版では初版より行の間隔が空いて文字の圧迫感から解放されている。初めて出てきた見慣れない漢字には振

り仮名がふられ、漢字アレルギーを生まないような工夫がされている。

本書の構成は十五話になっているが、陰陽、特に六病位の病態理解に重点を置き、中でも三瀧漢方の真骨頂である、柴胡剤と駆瘀血剤の解説では半端ない力が注がれている。また血、水という目に見えるものを先に解説し、目に見えない気を最後に解説している順は他書では見られない。さらに、本書ではほどよいタイミングで前の記載の振り返りがある点が復習効果を高めている、特に診察法や問診などについては繰り返し記載され、診察法の習熟に重点が置かれている。では初心者向けの本かというと、意外とエキシ剤にもないところでもない処方箋が鑑別処方として挙げられ、診療の幅がエキシ漢方にとどまらない。例えば茯苓四逆湯などは基本、煎じ薬しかないのに、人參湯と同じくらいのスペースが割かれている。第2版となって、新しい記載はないのか。実は私は小半夏加茯苓湯のところで新しい記載を発見した。初版にはない追加記載が随所に見られ、初版をお持ちの方もぜひ第2版を手元に置いていただきたい。三瀧先生の似顔絵も初版より年齢を加え、「仏のオーラが出ている」と隣の診察室の女医は言っているの、ぜひ見比べていただきたい。漢方診療こぼれ話は臨床家向けの味わい深い話の百味筆筈である。また所々で敬愛してやまない藤平

健先生、小倉重成先生のエピソードが紹介され、脈々と受け継がれる漢方診療の学統のぬくもりを感じさせられる。

同時出版の『はじめての漢方診療ノート第2版』は診察法中の解説にカラー写真がふんだんに追加掲載され、私も1枚ご協力させていただいた。記入スペースが多いのも初版以来の本書の特徴であり、臨床家である三瀧先生のセンスを感じる。本書を手にとった読者はぜひどこに何が書かれているか暗記するほどに読み込んで、三瀧流漢方の使い手になってほしい。なお、三瀧漢方の実践を経験したい方はいつでも、会津か飯塚に来られたし。

*B5・320 頁

2021 年 8 月

定価：5,940 円

(本体 5,400 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04750-0]

医学書院刊

**B5・160 頁

2021 年 8 月

定価：3,740 円

(本体 3,400 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04774-6]

医学書院刊